

神奈川県
SDGs社会的インパクト評価実証事業（2020年度）

業務報告

2021年3月24日
ケイスリー株式会社

はじめに

- 本事業の成果物は以下のとおりである。本資料は1に当たる。

	成果物	位置づけ・概要
報告書 (公開資料)	1 業務報告	本事業全体の報告
	2 実証事業レポート(1) ＜Fujisawaサステイナブル・スマートタウン＞	Fujisawaサステイナブル・スマートタウンにおける実証事業報告
	3 実証事業レポート(2) ＜かながわ信金＞	かながわ信用金庫における実証事業報告
	4 実証事業レポート(3) ＜NVCC＞	日本ベンチャーキャピタル株式会社における実証事業報告
	5 研修実施報告(概要と成果)	SDGsインパクト・マネジメントに関する入門研修(計3回)と実践研修(5回連続)の実施概要と成果の報告
	6 研修レポート集(研修の採録)	入門研修(計3回)と実践研修(5回連続)の採録集
	7 実践研修参加者の最終発表資料	実践研修参加者の最終発表資料
	8 事業者・金融機関へのアンケート・ヒアリング調査報告書	SDGsインパクト・マネジメントに関する過年度の取組みのフォローアップや事例に関する調査報告
	9 はじめてのSDGs社会的インパクト・マネジメントガイド	社会的インパクト・マネジメントを活用したSDGsへの取組みの第一歩を踏み出したい方々に向けたガイド
	10 【動画】最終報告	事業成果を共有する動画3本を公開 (1) 全体総括 (2) 実践者の声 (3) 委員のメッセージ
(参考)その他	A 検討委員会討議資料	本事業で4回開催した検討委員会の討議資料
	B 検討委員会議事メモ	本事業で4回開催した検討委員会の議事メモ

用語リスト

用語	略称	意味
アウトカム	—	事業活動による直接的な結果がもたらす短期的・長期的な変化や成果
アウトプット	—	事業活動による直接的な結果
インプット	—	事業活動（諸活動）等を行うために使う資源（ヒト・モノ・カネ）
社会的インパクト	—	短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム
社会的インパクト・マネジメント	SIM	事業が社会や地域に与える影響を可視化し、ポジティブな影響の増加やネガティブな影響を抑制するための事業改善や経営判断を行うマネジメント手法
持続可能な開発目標	SDGs	2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成される。地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓い、発展途上国のみならず先進国自身が取り組む普遍的なもの。
ロジックモデル	LM	事業が成果を上げるために必要な要素を体系的に図示化したもの
SDGsインパクト・マネジメント	—	「SDGs」と「社会的インパクト・マネジメント」を一気通貫で表現するために簡略化したもの。本事業においてのみ用いている。

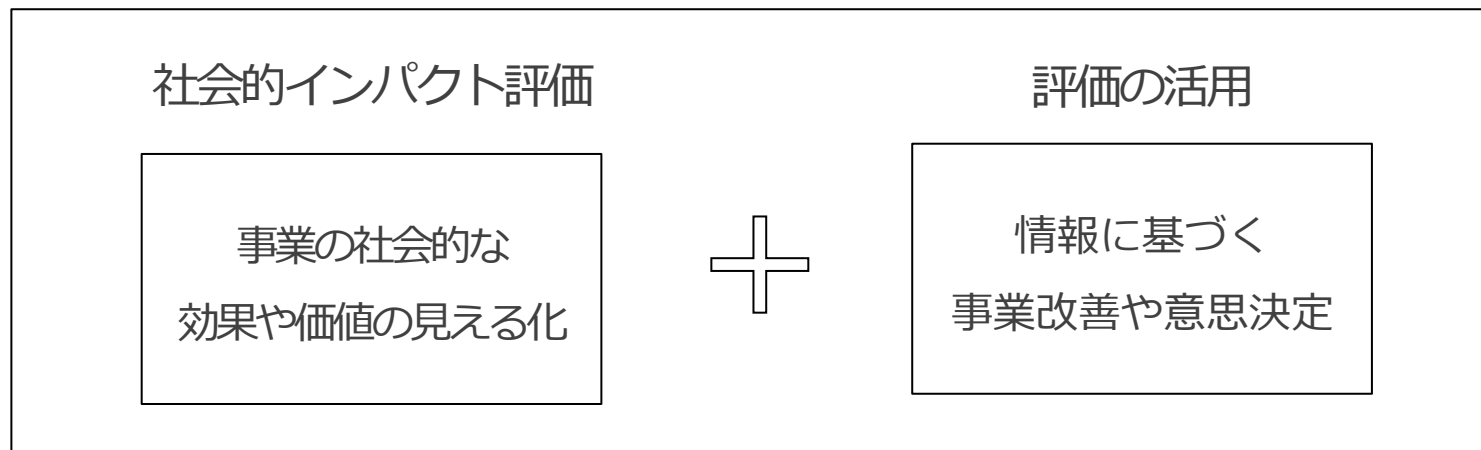
1. 本事業の焦点・目的・アプローチ
2. 本事業の内容・成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
3. 今後に向けた提言
4. 本事業の実施体制

1. 本事業の焦点・目的・アプローチ
2. 本事業の内容・成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
3. 来年度に向けて
4. 本事業の実施体制

1-1 事業の焦点

- 「社会的インパクト評価」をめぐる議論は、いかに測るかから、その情報をいかに活用するか、に移行しつつあり、SDGs採択以降その流れは加速している。
- 本事業でも、社会的インパクトの見える化にとどまらず、それをインパクト向上に活かしていく「社会的インパクト・マネジメント」(SIM)に重点を置いた。

社会的インパクト・マネジメント (SIM)



社会的インパクト・マネジメントとは

事業が社会や地域に与える影響を可視化し、ポジティブな影響の増加やネガティブな影響を抑制するための事業改善や経営判断を行うマネジメント手法

1-2-1 事業の目的（1）

- SDGsの観点から社会的インパクト・マネジメントに取り組むことで、事業の社会的価値の見える化や向上、ひいては持続性の向上を実現し、資金提供者との新たな対話を生むことをめざした。



- 環境・社会・経済を包摂
- 価値の「見える化」
- 価値の向上、持続性の向上

- 資金提供者との新しい対話

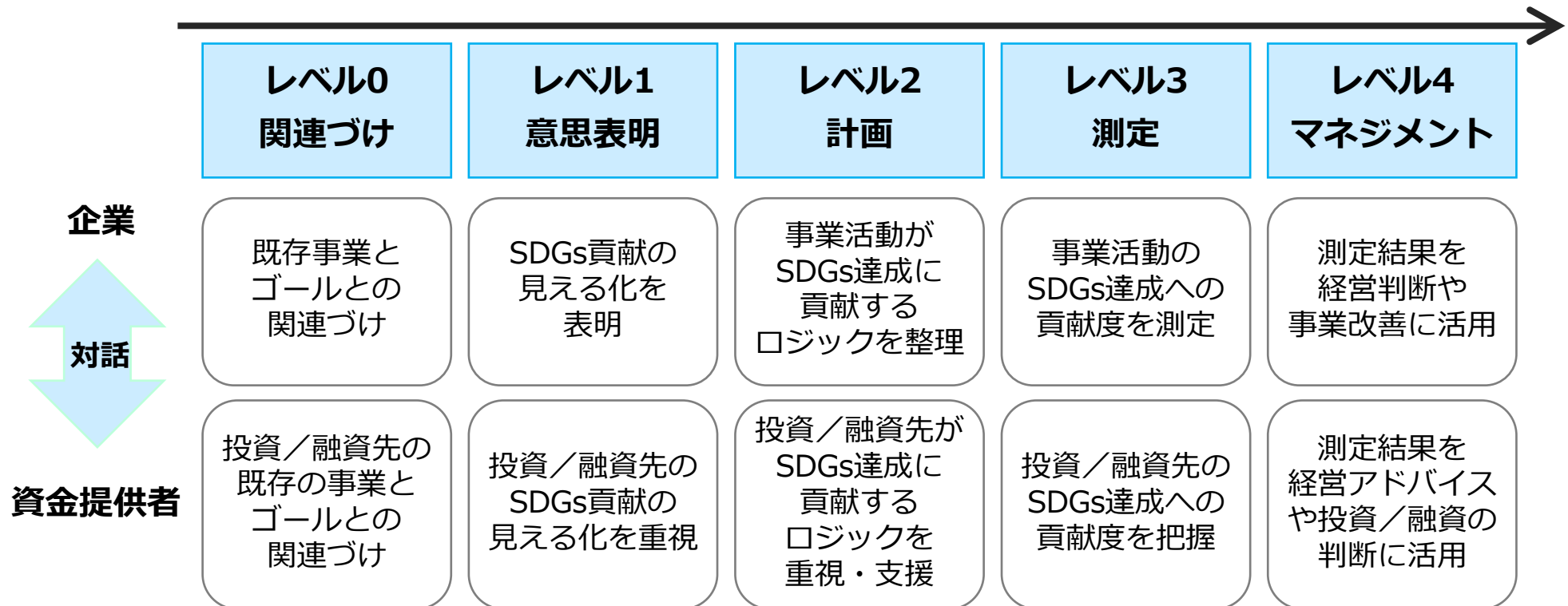
1-2-2 事業の目的（2）

- SDGsインパクト・マネジメントの実践により、事業者・資金提供者ともに質の高い「SDGs経営」の実現をめざすことが期待できる。

※ **SDGs経営**：本資料では「本業を通してSDGs達成への貢献を目指す経営」と定義しています

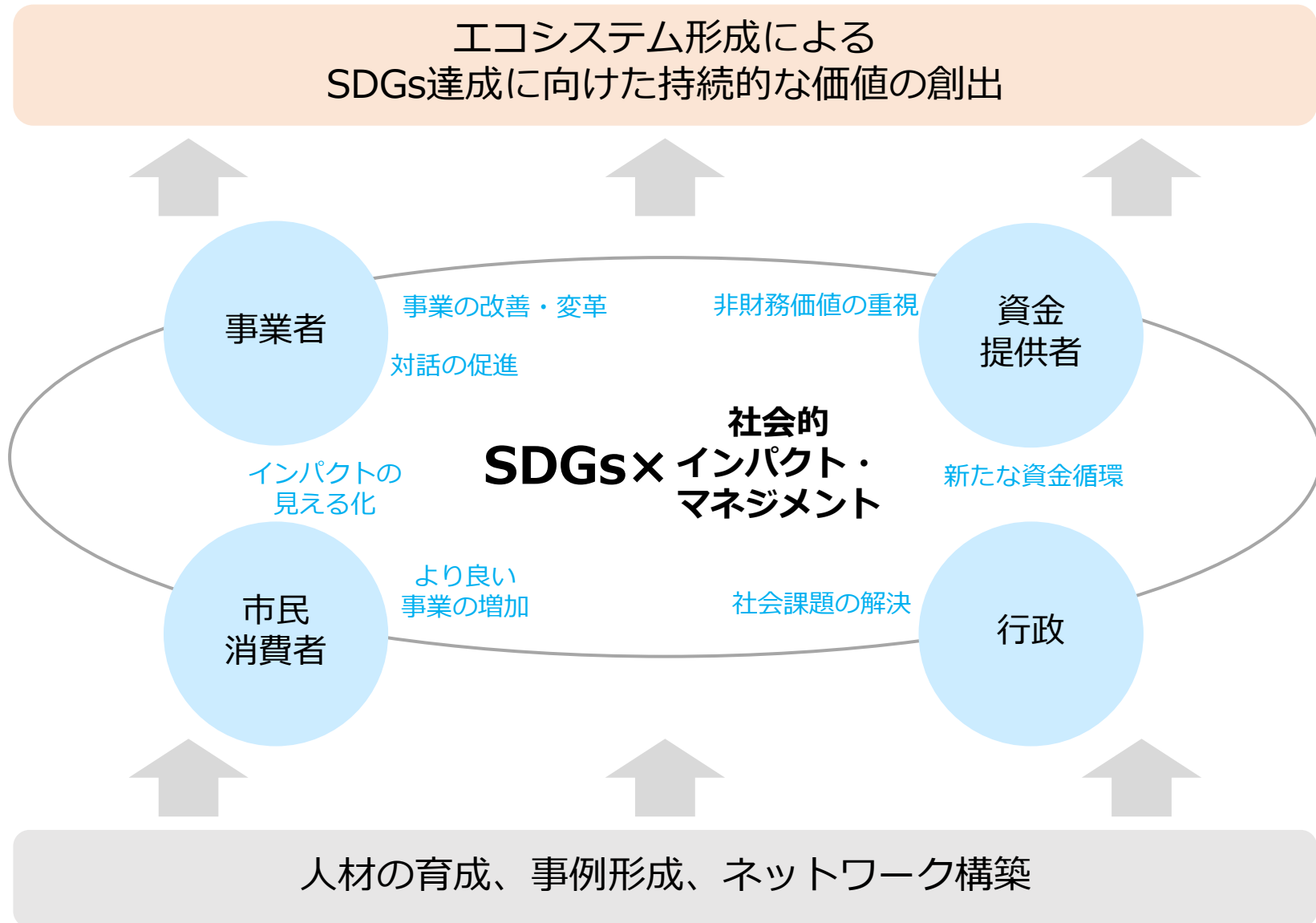


SDGs経営のレベルアップ



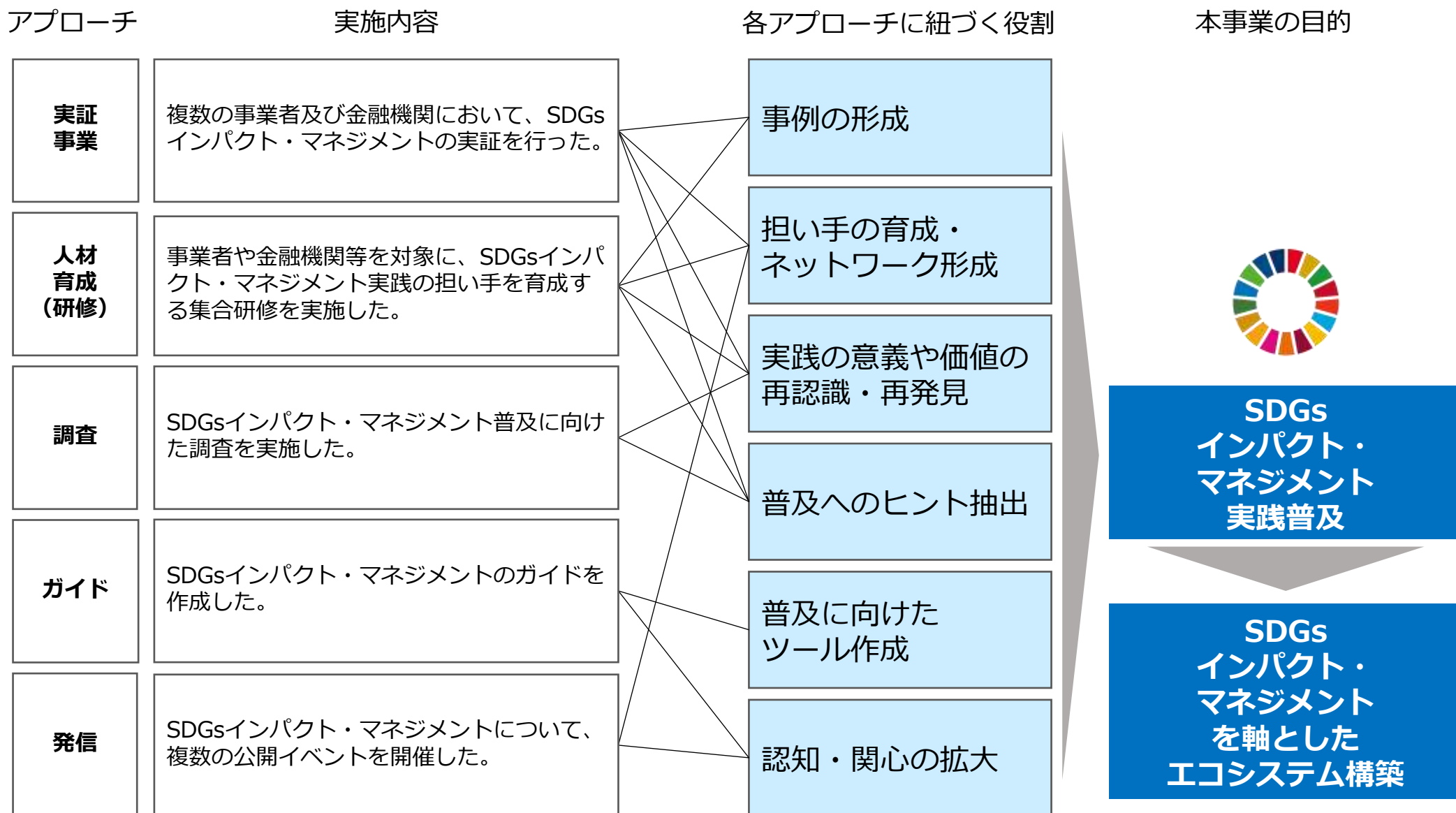
1-2-3 事業の目的（3）

- SDGsインパクト・マネジメントを軸として、事業者・資金提供者を含む多様なステークホルダーがSDGsに向けて連携するエコシステムの形成をめざした。



1-3-1 事業のアプローチ

- 本事業は、SDGsインパクト・マネジメント実践普及と、その先のエコシステム形成に向けて、主に5つのアプローチを同時に実施した。



1-3-2 事業のアプローチ（年度ごとの取組み）

- 各アプローチは、3年度にわたり、年々進化させながら実施してきた。各年度における主な取組みと結果は以下のとおり。

アプローチ	2018年度 土台をつくる	2019年度 実践を増やす	2020年度 自走化をめざす
実証事業	事業者における実証事業（3件）	事業者における実証事業（3件） （うち2件、金融機関が協力）	金融機関における実証事業（2件） 事業者における実証事業（1件）
人材育成（研修）	研修実施の準備 -求められる能力、技術の整理 -人材育成研修案の検討・作成	実践研修の実施 -25社参加→18名修了	実践研修の実施 -12社参加→22名修了
調査	有識者へのヒアリング - 16名	現状調査 - アンケート（回答81件） - インタビュー（5社）	フォローアップ・事例調査 - アンケート（回答24社） - インタビュー（8社・7自治体）
ガイド	「評価実践ガイド」初版	「SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド」 導入編／実践編／事例編	「はじめてのSDGs社会的インパクト・マネジメントガイド」
発信	成果報告会（216名参加）	・フォーラム（99名参加） ・公開セミナー（78名参加） ・成果報告会（ライブ配信）	・入門研修 計3回 （オンライン 計343名参加） ・成果報告会（ライブ配信・録画配信）

-
1. 本事業の焦点・目的・アプローチ
 2. 今年度の実施内容・成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
 3. 来年度に向けて
 4. 本事業の実施体制

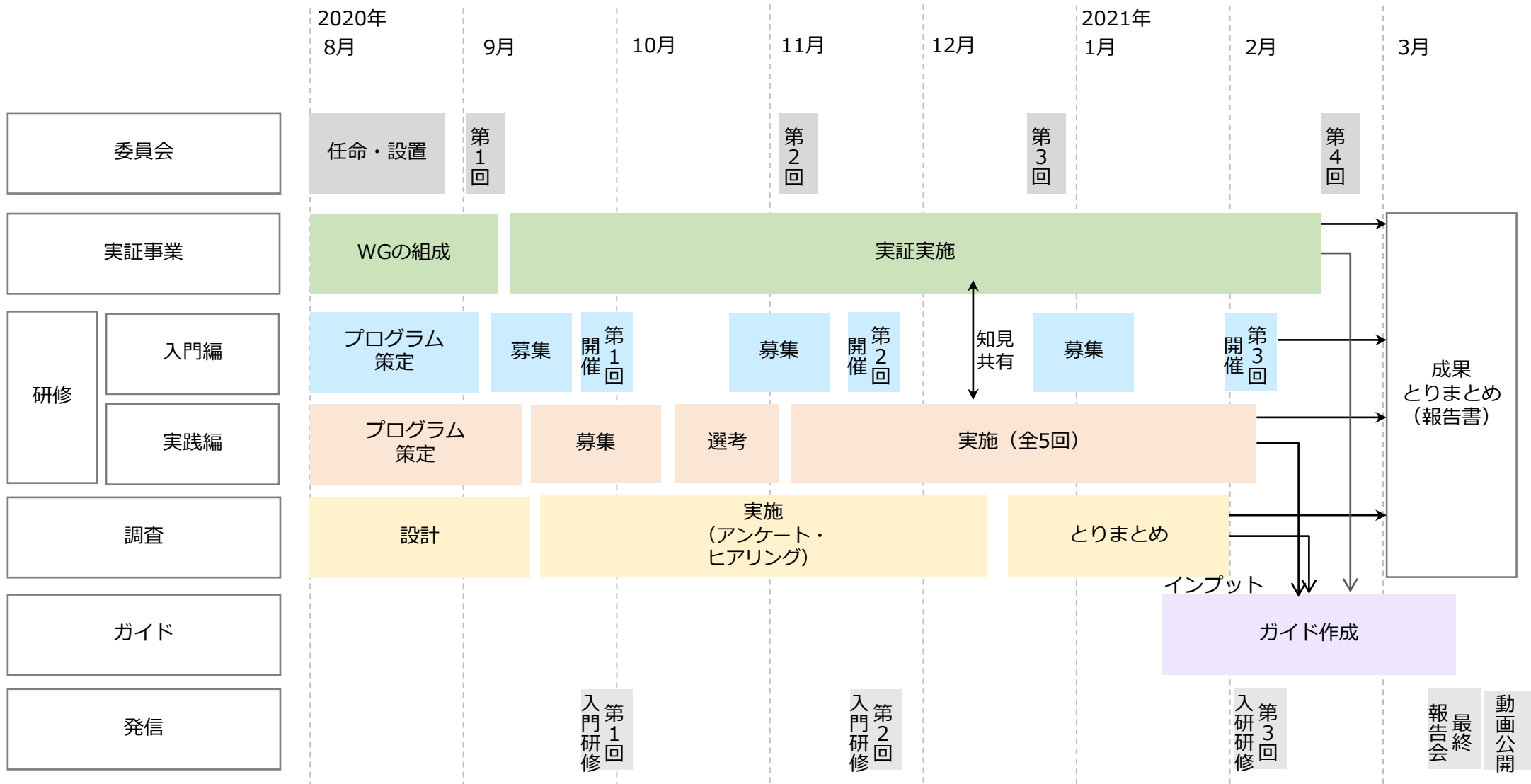
2-1-1 全体（実施内容）

- 今年度の実施内容の全体像は、以下のとおり。

	主な実施内容	主な結果・成果
委員会	<ul style="list-style-type: none"> 実践者、研究者、金融関係者等からなる委員会を設置。 4回の委員会を通じて、本事業の実施方針を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員のみならず、多数の事業関係者が参加し、事業者、金融機関、自治体など多様な視点から活発な議論が展開された。
実証事業	<ul style="list-style-type: none"> 3件の実証事業を実施。 うち2件は、金融機関（信用金庫・ベンチャーキャピタル）が主体となり、取引先企業の協力を得ながら実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者による社会的インパクト・マネジメントの活用のみならず、金融機関による活用、また金融機関を通じた事業者への普及の可能性が拓かれた。
人材育成（研修）	<ul style="list-style-type: none"> 入門研修を計3回実施、のべ約350名に対して概要を伝えた。 実践研修（全5回）を実施し、12組織の実践を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的インパクト・マネジメント実践の裾野を広げた。 実践研修参加組織の社会的インパクト・マネジメント実践が促進された。
調査	<ul style="list-style-type: none"> 過年度の事業関係者に対するフォローアップ調査を実施。 その他、金融機関や自治体への調査を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的インパクト・マネジメント実践普及やエコシステム形成に向けた示唆を得た。
ガイド	<ul style="list-style-type: none"> 実証や研修での学びを基に、「はじめてのSDGs社会的インパクト・マネジメントガイド」を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細を解説した昨年度作成のガイドに加え、最初の一步を踏み出したい方を対象にした、より簡潔にエッセンスを伝えるガイドが加わった。
発信	<ul style="list-style-type: none"> 入門研修や最終報告会の開催、入門・実践研修の採録の公開、ガイドの作成・公開等、複数にわたる発信の機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsや社会的インパクト・マネジメントに関する認知の向上や関心の喚起を通じ、実践の裾野を広げた。

2-1-2 全体（実施スケジュール）

- 本事業の実実施スケジュールは以下のとおり。



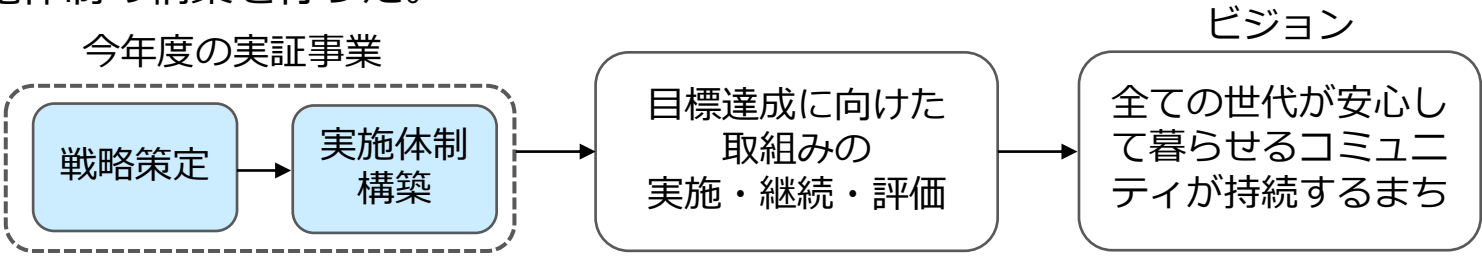
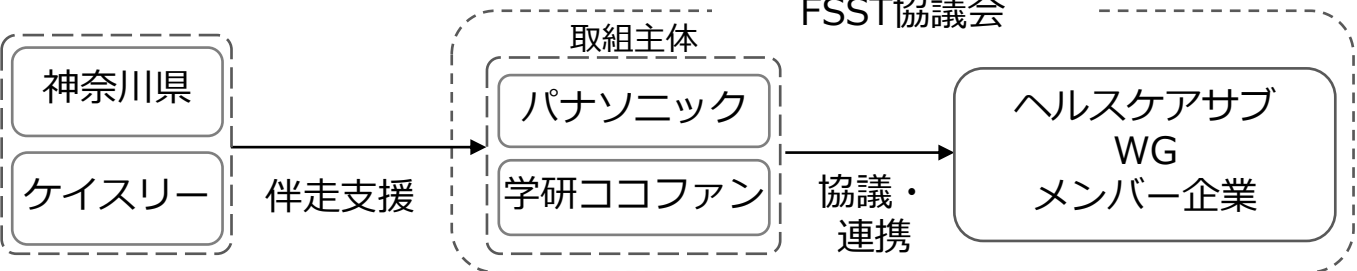
-
1. 本事業の焦点・目的
 2. 本事業の内容・成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
 3. 来年度に向けて
 4. 本事業の実施体制

2-2-1 実証事業

- 評価実証は、（１）Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（FSST）（２）かながわ信用金庫（３）日本ベンチャーキャピタル（NVCC）の3社にて実施した。金融機関を主体とする実証事業は、今年度初めての実施となった。

参加企業		協力企業／対象事業	実施概要
1	FSST協議会 (パナソニック株式会社、 株式会社学研ココファン)	コミュニティケア事業 (全ての世代が安心して暮らすためのコミュニティケアの普及)	FSSTが掲げる「全ての世代が安心して暮らせるコミュニティが持続するまち」の具現化に向け、地域の中でのいきいきとした生活を支えるコミュニティケア事業を対象に、SIMを用いて、コミュニティケア事業のめざすべき方向性を再整理し、ビジョンと事業の接続を試みた。
2	かながわ信用金庫	株式会社ダイイチ (ユニフォームの製造販売)	信用金庫のミッションである「地域の持続的な発展への貢献」に向けて、将来的には、SDGsインパクト・マネジメントを融資（事業性評価）に活用することを見据え、今年度は、その前段階として、社内での理解浸透と、取引先の経営支援に活用する事例構築を行った。
3	日本ベンチャーキャピタル株式会社 (NVCC)	スマートスキャン株式会社 (低価格で手軽な脳ドック検診サービスを展開)	「インパクト投資の実装」を最終的な目標とし、今年度は、そのファーストステップとして、「インパクト投資やSIMについての社内理解促進」と「インパクト投資実装の仕組みの検討」を行った。

2-2-2 Fujisawaサステイナブル・スマートタウンにおける実証事業（1/2）

<p>背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> 藤沢市にある「Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（通称FSST）」は、参画企業や住民の協働で運営が行われている。街の運営や事業の実施においてはビジョン達成のためのガイドラインが設けられているが、コミュニティアケア事業など、目標の達成度を数値化することが難しい事業においては、本来めざすべき目標に紐づけて戦略的に事業を実施することが難しい状態であった。そこでSIMを用いて、コミュニティアケア事業のめざすべき方向性を再整理し、ビジョンと事業の接続を試みた。 本事業へは、2018度より継続的に関わっている。
<p>実証事業の狙い</p>	<p>FSSTが掲げる「全ての世代が安心して暮らせるコミュニティが持続するまち」の具現化に向け、地域の中でのいきいきとした生活を支えるコミュニティアケア事業を対象に、基礎となる戦略策定と実施体制の構築を行った。</p> 
<p>実施体制</p>	<p>パナソニック株式会社と株式会社学研ココファンが中心的な実施主体となり、神奈川県とケイスリー株式会社がそれを支援をした。また、学研ココファンがリーダーを務めるヘルスケアサブワーキングのメンバー企業とも協議・連携し、実施体制の整備を行った。</p> 

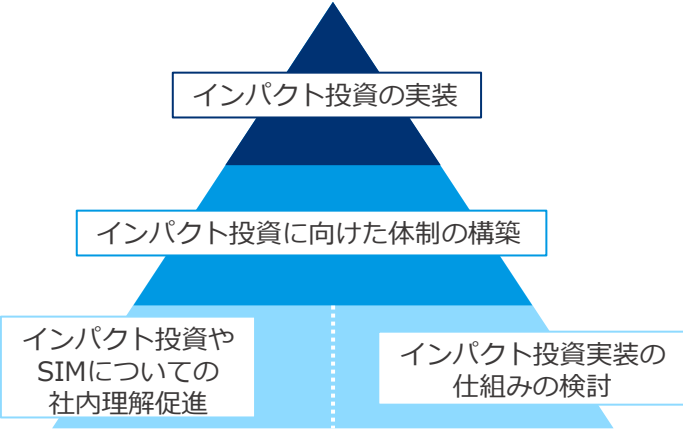
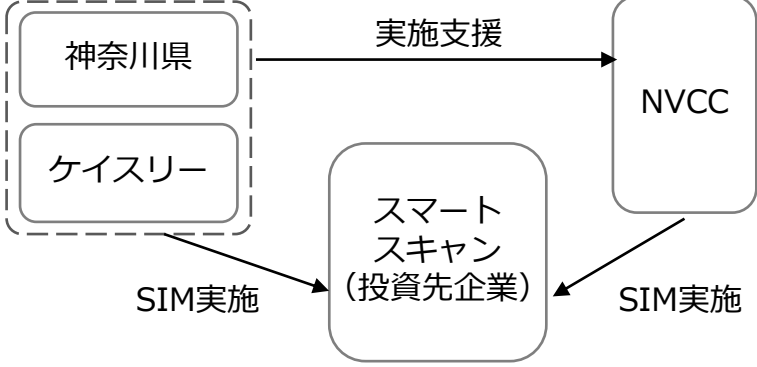
2-2-2 Fujisawaサステイナブル・スマートタウンにおける実証事業 (2/2)

<p>実施内容</p>	<p>本実証事業は、「戦略策定」「実施体制の構築」の2段階に分けて実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>戦略策定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 300px;"> <p>主な中身</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題とビジョンの整理 目標達成までの戦略(ロジックモデル)の策定 </div> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">➡</div> <div style="text-align: center;"> <p>実施体制の構築</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 300px;"> <ul style="list-style-type: none"> ビジョンと事業を紐づけるためのツール開発 ヘルスケアサブWGとの戦略共有および、実施体制構築に向けた協議 </div> </div> </div>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティケア事業の目指すべき方向性と、「住民主体のまちづくりが重要であり、ネットワーク形成や主体性促進等の働きかけが必要」という最重要ポイントが明らかになった。 「企画/振り返りのためのチェックリスト」を作成し、企画づくりを練習するワークショップを開催。どのような工夫をすれば目標達成につながられるかが具体的になった。 ヘルスケアサブWGのメンバー企業と協議し、重要ポイントと事業の目指すべき方向性についての共通認識が形成された。また、その後も、協議・報告の場を毎月設けることが合意され、継続して協働するための場が設置された。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は戦略策定や実施体制の構築を行ったが、今後は事業を実際に実施・評価し、継続して改善していくことが重要。 継続のためにも、担当者交代に対応できる仕組みづくりが必要。 今回策定した戦略に、さらに住民の声を反映させていくことが必要。
<p>今後について</p>	<p>今後の取り組みの方向性として、以下のアイデアが出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価指標および評価計画の策定と、コミュニティ全体に対する評価の実施 恒常的に目標達成を意識した事業を企画・実施・振り返りできる体制の構築と定着 本実証事業で策定した戦略への住民の声を反映、事業活動への住民の巻き込み

2-2-3 かながわ信用金庫における実証事業（1/2）

<p>背景</p>	<p>かながわ信用金庫では、以下を掲げてSDGs推進の具体的な取り組み方法を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年7月に発表した、かなしん「SDGs宣言」の具現化 取引企業のSDGs取り組み支援を通じた地域活性化 <p>本事業へは、2019年度より関わり、研修に参加。2020年度は、実証事業先として参画することとなった。</p>
<p>実証事業の狙い</p>	<p>信用金庫のミッションである「地域の持続的な発展への貢献」に向けて、将来的には、社会的インパクト・マネジメントを「融資（事業性評価）に活用」することを見据え、今年度は、その前段階として、「社内理解浸透」と、それを取引先の「経営支援に活用」する事例形成を行った。なお、経営支援に活用する事例形成は、来年度以降も継続される予定。</p> <pre> graph LR subgraph "今年度の実証事業" A[社内理解浸透] B[経営支援に活用] A <--> B end A --> C[融資（事業性評価）に活用] B --> C C --> D[地域の持続的な発展への貢献] B --> D </pre>
<p>実施体制</p>	<p>かながわ信用金庫（主に、経営企画部・業務企画部）が実施主体となり、神奈川県とケイスリー株式会社がそれを支援した。また、かながわ信用金庫の取引先である株式会社ダイイチに、SIMを経営支援に活用する事例形成において協力を得た。</p> <pre> graph TD subgraph "支援者" K[神奈川県] S[ケイスリー] end K -- 実施支援 --> CC[かながわ信用金庫] CC -- SIM実施 --> DI[株式会社ダイイチ（取引先企業）] </pre>

2-2-4 日本ベンチャーキャピタルにおける実証事業（1/2）

<p>背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> インパクト投資の検討を進めるに当たり、日本ベンチャーキャピタル（NVCC）社内のインパクト投資や社会的インパクト・マネジメント（SIM）に関する理解やノウハウが不足していた。特に、社会的価値の可視化や、それを経営に活用する社会的インパクト・マネジメントについて、それによるメリットが不明で、むしろ業務量や手間が増えるだけではというイメージが先行していた。 本事業へは、2019年度より関わり、研修に参加。2020年度は、自社にてSDGsインパクト・マネジメントの実証事業を実施することとなった。
<p>実証事業の狙い</p>	<p>「インパクト投資の実装」を最終的な目標とし、本年度は、そのファーストステップとして、「インパクト投資やSIMについての社内理解促進」と「インパクト投資実装の仕組みの検討」を行った。</p> 
<p>実施体制</p>	<p>実証事業ではNVCCが実施主体となり、ケースリーと神奈川県がそれを支援した。また、NVCCの投資先であるスマートスキャン株式会社に、SDGsインパクト・マネジメント実践の事例形成において、協力を得た。</p> 

2-2-4 日本ベンチャーキャピタルにおける実証事業（2/2）

<p>実施内容</p>	<p>NVCC社内での勉強会や投資先であるスマートスキャンのSIM支援の取り組みを通じて、SIMを「理解する」「実践する」「活用する」の3段階で実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>理解する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>インパクト投資やSIMに関する社内勉強会を実施</p> </div> </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="text-align: center;"> <p>実践する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ NVCCの投資先企業への経営支援におけるSIMの活用を実践 ・ NVCC社内でSIMを実践 </div> </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="text-align: center;"> <p>活用する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>実践を基に、今後の活用について検討</p> </div> </div> </div>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマートスキャンが、SIM（特にロジックモデル構築）のプロセスを通じて目指す成果や長期的な事業の価値を再確認し、取締役間の共通理解を深める機会となった。 ・ 今回の実証事業の成果物は、投資先企業とインパクト投資家とのコミュニケーションの素材として活用可能性が見えた。今後スマートスキャンは、成果物を活用してさらなる資金調達に邁進する予定である。 ・ NVCC側からは、実証事業に複数名の社員が参加し、SIMの意義の理解が広がるなど、組織内における面的な広がりが見え始めた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本実証事業では、ケースリーが中心となってスマートスキャンへのSIM支援を実施したが、今後はNVCCの投資先企業に対するSIM支援を可能にするため、自らが活用して行くことが必要である。NVCC側への実証事業の学びの落とし込みや、実施のための人材育成や体制構築が求められる。 ・ NVCCのステークホルダー（社内人材、LP投資家など）が「社会性」も見ることの重要性に関する理解醸成を促し、今後実際にインパクト投資を実現していく基盤の構築が必要である。
<p>今後の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマートスキャンの事例を基に、SIM実践に必要な要素やNVCCに蓄積すべきノウハウを抽出する。 ・ インパクト投資やSIM実践に対するNVCC社内の理解を深める機会を設け、将来的な実現に向けた検討を組織的に進める。 ・ 投資業務におけるSIM活用に向けて、実現可能な運用方法を検討する。 ・ NVCCの投資先企業において、スマートスキャンに続く事例の構築を進める。

-
1. 本事業の焦点・目的
 2. 本事業の内容・成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
 3. 来年度に向けて
 4. 本事業の実施体制

2-3-1 研修（実施概要）

- SDGs社会的インパクト・マネジメントに関する研修の入門編を3回、実践編を連続講座5回で実施した。

入門編

実践編

目的	<ul style="list-style-type: none"> SDGs社会的インパクト・マネジメントの普及 新たな関係者（金融機関を含む）とのつながりを作る 実践編への参加を促す（第1回のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> 「SDGsインパクト・マネジメントの実践事例づくり、普及者の育成」（事業者）
<p>日程</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 2020/ 9/29（火） 14時-15時半 第2回 2020/11/27（金） 14時-15時半 第3回 2021/ 2/ 4（木） 17時-18時半 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 2020/11/ 5（木） 14時-17時 第2回 2020/11/20（金） 14時-17時 第3回 2020/12/ 4（金） 14時-17時 第4回 2021/ 1/ 8（金） 14時-17時 第5回 2021/ 1/22（金） 14時-17時
<p>概要</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> 「SDGsインパクト・マネジメント」の説明 SDGs×インパクト投資の事例紹介 2019年度実践研修参加者の声 <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践研修参加者の女子サッカークラブ「大和シルフィード」の取り組みを例に、ロジックモデルをリアルタイムで作成 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践研修参加者の保育士資格取得支援事業を行うキャリアフィールド株式会社と、インパクト投資を行う新生企業投資株式会社が「事業者と金融機関との対話を促すために重要なポイント」をテーマに対談 	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsインパクト・マネジメントとは（ロジックモデルの説明） <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsを紐付けることの意義 データ収集計画について <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融関係者による事例紹介 <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> データ分析・まとめ方について 金融との接続に関する議論 <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終成果発表

2-3-2 研修（実施結果・成果）

- 入門編では343名、実践編では12組織26名の参加者が研修を受講した。

入門編

実践編

参加者・
組織数等

第1回 **144名** 第2回 **111名** 第3回 **88名**

参加組織 **12社** 参加者 **26名**

期待に対する満足度 **88%**
218/247人

SIMを学ぶ意向 **77%**
189/247人

証書発行※ **22枚**

平均出席率 **86%**
112/130人

※所定の条件を満たした参加者に「神奈川県SDGs社会的インパクト・マネージャー」課程の修了証書を発行

第1回

- ESG投資のさらに先を行く取り組みを知ることができて、とても有意義でした。
- 神奈川県内のSDGsの動きがよくわかった。

第2回

- ロジックモデルの作成プロセスの流れを知ることが出来、とても勉強になりました。
- 今までの各種SDGsセミナーのなかで、一番具体的にわかりやすかった。

第3回

- ロジックモデルの構築の仕方、どのような指標になるのか具体的な事例で聞いて、理解が深まった。
- 金融機関からの評価、判断視点があったのが何より参考になりました。

第2回

- ロジックモデルは誰に何を説明するための資料なのかを意識した。
- 誰が購買層なのかではなく、誰が一番困っているのかの視点が大切だと気づいた。

第3回

- SDGsに取り組む企業への金融機関のスタンスを知ることができた。
- 実際のインパクト投資の事例及びロジックモデルのインセンティブ機能を知ることができた。

第4回

- データは集めて分析することに意味があるが、まず目的を明確にし出口をイメージする必要がある。分析の手法はそれによる。具体例を見られてよかった。

アンケート
結果・
出席率等

寄せられた声の一部

-
1. 本事業の焦点・目的
 2. 本事業の内容・成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査**
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
 3. 来年度に向けて
 4. 本事業の実施体制

2-4-1 調査（実施概要）

- SDGsインパクト・マネジメント推進に関する①2020年度事業への活用、②次年度以降活用するための提言・情報のまとめを目的として、3か年の成果・課題の抽出や情報収集を内容とする調査を実施した。

各年度の事業内容と成果



2-4-2 調査（実施結果・成果）

- 2018年度、2019年度の神奈川県SDGsインパクト評価実証事業の関係者、および神奈川県の取り組みに親和性の高い関係者にアンケートとヒアリングを実施した。

	対象者	アンケート（回収数） ヒアリング（実施数）	結果概要
事業者	2018年度・2019年度の神奈川県SDGsインパクト評価実証事業関係者の内、2018年度と2019年度の実証事業参加者、2019年度の研修参加者にアンケートを実施。特に社会的インパクト・マネジメント実践の継続が見込まれる組織にヒアリングを実施	15社 4社	<ul style="list-style-type: none"> アンケートはコロナや退職等の影響で7割の回収数 事業改善への活用例や、他事業での活用例など面への広がりがあるが、金融との接続には至っていない
金融機関	2019年度の神奈川県SDGsインパクト評価実証事業の研修参加者にアンケートを実施。また、昨年度の研修参加の有無に関わらず、実際にESG投資やインパクト投資を推進、実施している組織にヒアリングを実施	9社 4社	<ul style="list-style-type: none"> アンケートは8割の回収数 行政によるSDGs推進は地域金融機関にとっては有効。より簡潔な仕組み・参画しやすい施策が求められている
行政	SDGs未来都市選定の自治体を中心に、先進的かつ神奈川県のSDGs推進の取り組みに親和性のある取り組みを行う自治体にヒアリングを実施	— 7自治体	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県含む7自治体のSDGs推進状況を把握 各行政特色はあるが、地方創生SDGs金融の流れを含め、金融機関を通じた中小企業の支援を重要視
成果物	事業者、金融機関、行政に向けた SDGsインパクト・マネジメント実施のヒント集・提言集を作成		

-
1. 本事業の焦点・目的
 2. 本事業の内容・成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 **ガイド**
 - 2-6 発信
 3. 来年度に向けて
 4. 本事業の実施体制

2-5-1 SDGsインパクト・マネジメント ガイド（位置づけ）

- 昨年度作成の3つのガイドに加えて、第一歩を踏み出したい方々に向け、さらに簡潔にエッセンスをお伝えすることを目的とした「はじめてのSDGs社会的インパクト・マネジメントガイド」を作成した。

昨年度作成の3つの
「SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド」

より多くの方に利用しやすい
ものとなるよう簡略化



SDGs経営の意義や、それを進めていく手法としての社会的インパクト・マネジメントの概要を紹介



SDGs×社会的インパクト・マネジメントを進めていく方法について、具体的なプロセスを解説



実証事業におけるSDGs社会的インパクト・マネジメント実践の具体例

今年度作成の「はじめてのSDGs社会的インパクト・マネジメントガイド」



SDGsへの取り組みに関心があり、実践の第一歩を踏み出したいと考えている方々に向けて、SDGs社会的インパクト・マネジメントのエッセンスを紹介

2-5-2 SDGsインパクト・マネジメント ガイド（作成プロセス）

- 昨年度作成の3つのガイドを基に、実践研修や実証事業内での活用を通じて改善し、現場でのニーズ等も踏まえて、今年度のガイドパッケージを作成した。

昨年度作成の
3つのガイド



活用・エッセンスの絞り込み・簡略化

実証事業

実践研修

委員会、
事業関係者
への
ヒアリング

今年度作成のガイド



-
1. 本事業の焦点・目的
 2. 本事業の内容・成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
 3. 来年度に向けて
 4. 本事業の実施体制

- 本事業の成果や学び、課題を広く共有し、SDGsや社会的インパクト・マネジメントへの関心を喚起し、実践者を増やしていくため、最終報告会を動画として公開した。

		概要	スピーカー（敬称略）
最終報告 動画	1 全体総括	3年度にわたる取り組みの中身、成果、学びを総括。その上で、今後のSDGs達成に向けた自治体・企業・金融機関の連携を拡大・強化していく道筋を展望する。	<ul style="list-style-type: none"> 船山竜宏（神奈川県） 今田克司（株式会社ブルー・マーブル・ジャパン） 幸地正樹（ケイスリー株式会社） 今尾江美子（ケイスリー株式会社）
	2 実践者の声	SDGsインパクト・マネジメントの実践は、企業にとってどのような意味を持つのか。その生の声を聞く、実践研修に参加した4社の代表のインタビュー動画。	<ul style="list-style-type: none"> 足立直隆（株式会社レスティル） 大多和亮介（大和シルフィード株式会社） 小島啓義（株式会社ケイ・システム） 小瀧歩（アグリマス株式会社）
	3 委員 メッセージ	SDGsインパクト・マネジメントの意義とは、そこにおいて本事業が果たした役割とは。異なる視点で、本事業に委員として関わられた4名からのメッセージ動画。	<ul style="list-style-type: none"> 大井 千佳生（株式会社横浜銀行） 志波 崇裕（パナソニック株式会社） 黄 春梅（新生企業投資株式会社） 米原 あき（東洋大学）

動画掲載先：<https://youtube.com/playlist?list=PLPcqjGbtfaIQha3k-QGOB4kl5cID7SuWj>

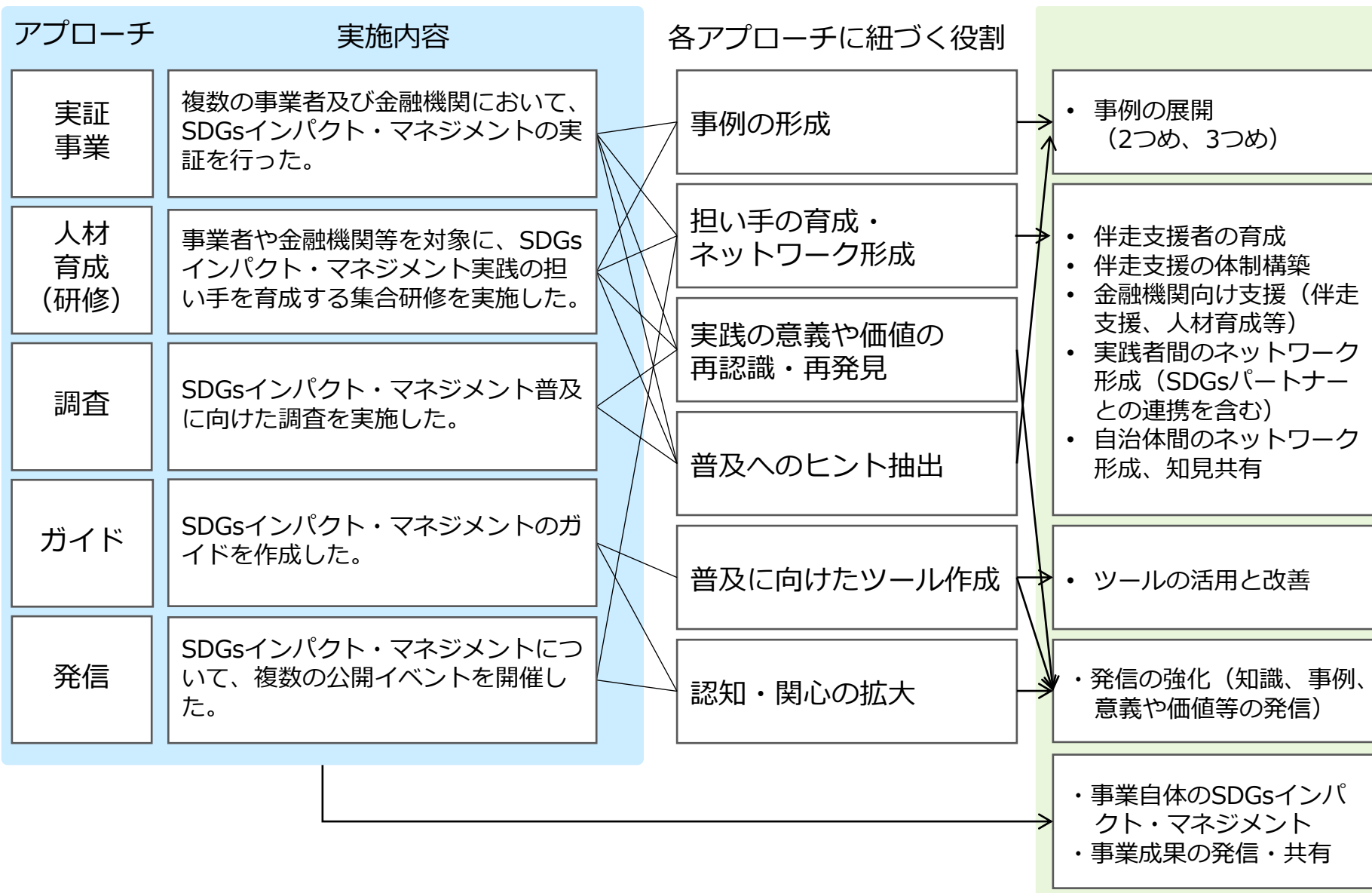
-
1. 本事業の焦点、目的
 2. 本事業の成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
 3. 今後に向けた提言
 4. 本事業の実施体制

3 今後への提言

- 事業を通じ、SDGsインパクト・マネジメント普及に向けて今後必要なことは、以下のよう整理される。

これまで実施したこと

今後、必要なこと



**SDGs
インパクト・
マネジメント
実践普及**

-
1. 本事業の焦点、目的
 2. 本事業の成果
 - 2-1 全体
 - 2-2 実証事業
 - 2-3 研修
 - 2-4 調査
 - 2-5 ガイド
 - 2-6 発信
 3. 来年度に向けて
 4. 本事業の実施体制

4-1 実施体制 (1/2)

- 業務ごとに、弊社メンバーを含むワーキンググループを形成する。それらの取り組みを弊社がとりまとめ、委員会での議論を踏まえて推進。



4-2 実施体制（2/2）

- 業務別ワーキンググループ（WG）、受託者、委員会、外部協力者の概要と主な業務内容は以下のとおり。

	概要	主な業務内容
業務別WG	構成業務ごとに、事業者、資金提供者、委託者メンバーで構成されるWGを組成し、実証事業・研修・調査等を実施	<ul style="list-style-type: none">・実証事業の実施・研修（入門編／実践編）の実施・調査の実施
受託者	中心的立場として本事業を推進	<ul style="list-style-type: none">・WG組成、とりまとめ・実証事業・実践研修・調査に基づくガイド作成・委員会の設置及び開催運営・最終報告会の開催・成果品の作成
委員会	評価専門家・実践者、行政、事業者、金融関係者等で構成される委員会を設置し、4回の委員会を開催	<ul style="list-style-type: none">・SDGsインパクト・マネジメント普及に向けた検討・社会的投資等、民間資金の呼び込みに向けた検討・人材育成等、実践の普及に向けた検討・今後の取り組みに関する検討

4-3 検討委員会

- 検討委員会は、以下の日程で4回開催した。各回とも、業務の進捗と連動した議題を設定し、委員（7名）及びオブザーバー（合計約13組織、15名）による討議を実施した。

回	日程	主な議題
第1回	2020年9月2日	<ul style="list-style-type: none">今年度事業の概要 (実証事業、入門研修第1回、実践研修概要、調査について)
第2回	2020年11月6日	<ul style="list-style-type: none">調査、実証事業、研修（入門、実践）の進捗共有現在までの実績のさらなる展開次年度以降の自走化に向けた課題と提案
第3回	2020年12月23日	<ul style="list-style-type: none">全体進捗共有入門研修第2回開催報告、第3回企画案共有実践研修第4回内容案共有ガイド作成について今後の取組み（金融機関・事業者、行政、今年度事業の各観点）
第4回	2021年2月19日	<ul style="list-style-type: none">3年間の取組みと成果成果報告会の開催方法について神奈川県に来年度の取組み紹介今後の目標と、それに向けた来年度目標および具体的な取組について

4-4 委員会メンバー

- 委員会メンバーは以下のとおり。事業者、事業支援者、資金提供者、学者、行政をまたいで構成した。（敬称略、五十音順）

氏名		所属	役職
今田 克司	委員	一般財団法人CSOネットワーク	常務理事
大井 千佳生	委員	株式会社横浜銀行	地域戦略統括部 担当部長
幸地 正樹	委員長	ケイスリー株式会社	代表取締役
志波 崇裕	委員	パナソニック株式会社	ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 SST推進課
黄 春梅	委員	新生企業投資株式会社	インパクト投資チーム シニアディレクター
山口 健太郎	委員	神奈川県	理事(いのち・SDGs担当)
米原 あき	委員	東洋大学	社会学部 社会学科 教授

4-5 受託者

- 受託者は、ケイスリー株式会社と再委託先の株式会社ブルー・マール・ジャパンに所属する計12名で構成した。

担当	氏名	所属	役割
業務責任者	幸地 正樹	ケイスリー株式会社	業務全体の統括・品質管理
業務管理者	今尾 江美子	ケイスリー株式会社	業務全体の管理・推進
業務担当者	熱田 瑞希	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	落合 千華	ケイスリー株式会社	業務全体の管理・推進
業務担当者	鬼澤 陵	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	金子 万里子	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	栗野 泰成	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	澁江 耕介	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	鈴井 豪	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	高橋 聖子	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	千葉 直紀	株式会社ブルー・マール・ジャパン	業務の推進